

日本都市社会学会ニュース

NO. 115 (2020. 3. 29)

事務局：〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1
首都大学東京 都市環境学部都市政策科学科 山本薫子研究室内
e-mail:usocio@urbansocio.sakura.ne.jp fax:042-677-2352
(振替口座：00140-4-703976) URL：http://urbansocio.sakura.ne.jp/

日本都市社会学会 第38回大会

歓迎の言葉

妻木進吾（龍谷大学）

日本都市社会学会第38回大会を2020年9月5日（土）、6日（日）の日程で、龍谷大学・深草キャンパスで開催させていただきますことになりました。

龍谷大学は、1639年（寛永16年）に京都、西本願寺境内に設けられた教育施設「学寮」を出発点とし、380年の歴史をもつ、「日本で一番長く教育・研究活動をおこなっている大学」です。主なキャンパスとして、発祥の地にある大宮キャンパス、1960年に開設された京都市伏見区の深草キャンパス、1989年に開設された滋賀県大津市の瀬田キャンパスがあり、文学部、経済学部、経営学部、法学部、政策学部、国際学部、理工学部、社会学部、農学部の9学部、そして短期大学部、合わせておよそ2万人の学生が学んでいます。社会学部は理工学部、農学部とともに瀬田キャンパスにあり、そこには多くの社会学者がいますが、今回の大会会場はそこではなく、社会学の専任教員2人、都市社会学会会員は私一人の深草キャンパスとなります。

深草キャンパスは、下記「交通のご案内」にある通り、3線3駅の徒歩圏内にあります。そのうちの一つ、JR奈良線の稲荷駅を降りると、目の前に、外国人旅行者に日本で最も人気のある観光スポット、千本鳥居が有名な伏見稲荷大社があり、30分もあればその雰囲気を楽しむことができます。深草キャンパスとその周辺は、「オーバーツーリズム」「観光公害」問題の最前線ではありませんが、伏見稲荷大社は、その一端を垣間見ることのできる場所です。大学周辺を少し歩くと、住宅街の路地に一棟貸しの民泊、その周囲には、「We do not welcome this lodging!」「We are in trouble over this lodging!」と英語、そして中国語で書かれた町内会の貼り紙も見られ、ベネチアやアムステルダムの街路の垂れ幕、「ノーモア・ツーリズム」「観光客が街を殺す」ほどではないとしても、「オーバーツーリズム」「観光公害」をめぐる緊張の一端を知ることができます。大会前後、お時間に余裕があれば散策も良いかと思えます。

大会は深草キャンパスでもっとも新しい和顔館（わげんかん）で、懇親会は2020年4月オープン予定の学内のレストランで計画しています。

多くの会員の皆さまにご参加いただき、充実した大会になりますよう、近隣大学の先生方にもお手伝いいただきながら、お迎えの準備を進めています。新型コロナウイルス感染症をめぐる現在の混乱が収束し、落ち着いた状態で大会を迎えることができますようお願いしつつ、会員の皆さまのご来校を心よりお待ちしております。

大会案内（会場・交通・宿泊）

1. 期間および会場

期間:2020年9月9日(土)、6日(日)

会場: 龍谷大学・深草キャンパス 和顔館（わげんかん）

〒612-8403 京都府京都市伏見区 深草塚本町 67

https://www.ryukoku.ac.jp/about/campus_traffic/traffic/t_fukakusa.html

食事: 大学内の食堂、周辺の飲食店をご利用下さい。徒歩5分程度の範囲にコンビニがあります。
懇親会会場は、学内の施設を利用する予定です。

2. 交通のご案内

JR奈良線「稲荷」駅下車、南西へ徒歩約8分

京阪本線「龍谷大前深草」駅下車、西へ徒歩約3分

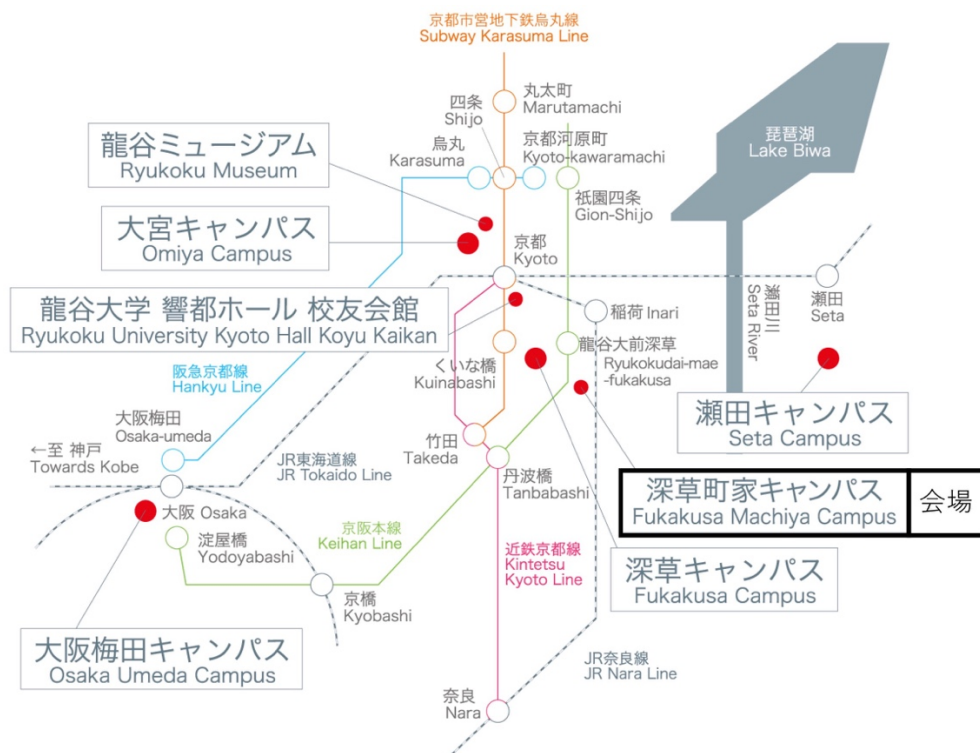
京都市営地下鉄烏丸線「くいな橋」駅下車、東へ徒歩約7分

最寄りのバス停: 市バス 龍谷大学前

3. 龍谷大学・深草キャンパス

次頁の地図の★印が会場です。

詳細な会場案内図は、「日本都市社会学会ニュース」(7月号)に掲載させていただきます。





4. 宿泊のご案内

新型コロナウイルス感染症をめぐる混乱が生じる以前は、京都市内ではリーズナブルな宿の予約が、非常に難しい状況が続いていました。大会開催時の状況は読めませんが、お早めに宿泊先をご予約ください。なお、深草キャンパス周辺にも、アーバンホテル京都などのビジネスホテルが数軒あります。

大会企画（企画委員会報告）

2020年1月12日（日）に龍谷大学大阪梅田キャンパスで、2020年3月8日（日）に首都大学東京秋葉原サテライトキャンパスで、第3、4回委員会を開催しました。主として次回大会の企画についての検討を進めました。以下の通りです。

シンポジウムでは、前回大会のテーマ部会「アジア都市社会学の新展開」を引き継ぎつつ、都市社会学の国境を越えた展開をさらに推し進めることを目指します。テーマは「都市下層の比較社会学」（仮題）です。アジアの都市下層やコミュニティの問題を都市のグローバルなダイナミクスに位置づけて議論していきたいと考えています。

テーマ部会では、日本の都市に近隣効果論からアプローチすることを試みます。この部会のひとつの目的は、2021年度大会で予定している近隣効果をテーマとした国際シンポジウムを見据え、関連する諸論点を明らかにすることです。北米中心に展開されてきた近隣効果論ですが、日本でどのように理解できるか議論したいと考えています。

ラウンドテーブルは「国境を越えた調査の実践」をテーマとします。海外調査のノウハウの交換や、日本で調査する留学生や海外研究者との交流の場となることを期待しています。ラウンドテーブルは誰でも気軽に語り合い議論に参加できます。とくに大学院生などの若い世代が主役になれる機会です。ぜひご参加ください。

（企画委員会委員長 松尾浩一郎）

ラウンドテーブル「国境を越えた調査の実践」

【話題提供者募集】

【趣旨】

今大会でも、会員、特に若手会員の研究交流と多様な論点を創発的に生み出すことを目的として、「ラウンドテーブル」を企画します。今回のテーマは「国境を越えた調査の実践」（下記参照）です。

論点提示のため、テーマに関して5分程度の「話題提供」をしていただける会員を募集します。レジュメや報告資料の準備は基本的に不要ですが、必要に応じてパワーポイント、紙媒体の資料等を提示していただくことはかまいません。特に「フィールドを耕し始めた」若手研究者の方に話題を提供していただき、世代を超えて意見・情報交換できればと考えています。

なお、自由報告部会に登壇予定の方も話題提供者になれることとします。ただし、自由報告部会での報告と同じ内容のトピックでのエントリーはお控えください。また今回は、話題提供者には大会終了後、その内容を600～800字程度にまとめていただき、大会報告号のニューズレター（例年、11月に発行）に掲載する予定です。

応募方法：**2020年6月3日（水）18時必着**。件名に「ラウンドテーブル申し込み」と明記の上、氏名、所属、連絡先、発言予定のトピックをメールでお知らせください。
申し込み先：日本都市社会学会事務局（usocio@urbansocio.sakura.ne.jp）

・テーマ「**国境を越えた調査の実践**」（大会1日目〔9月5日〕13:30-15:00）

今年度のラウンドテーブルでは、国境を越えて行われるフィールドワークの実践に焦点を当てる。グローバル化が進む現在、日本の都市社会学の射程はもはや日本国内だけに収まらなくなりつつある。とはいえ、研究者が海外調査の具体的な経験を共有し、そこから学ぶ機会といえば、個人的な付き合いか、それぞれの著作を読む程度に限られてきた。日本から海外へ、海外から日本へ、日本の中の異国へと、自身にとって未知の世界に入り込んでいくとき、調査者を待っているのはどのような困難と発見であろうか。また、様々な文化の違いに戸惑い、マジョリティ/マイノリティという日頃の立場が逆転する経験の中で見えてくる知見とは何か。本ラウンドテーブルでは国境を越えたフィールドワークの経験を持つ方々から話題提供を受け、海外調査ならではの魅力と可能性について広く議論を行ってみたい。具体的には、短期・長期の海外調査経験者、日本国内のエスニック・マイノリティについて調べている研究者、留学生など日本で調査する海外研究者、これらの調査をこれから計画の方などからの話題提供を期待する。自由な意見交換を通じて調査のノウハウを共有し、若手研究者に海外研究の魅力を伝えるとともに、人類学が主流になっている海外調査における社会学固有の役割を確認するのが今回の目的である。

※会場は出入り自由・飲食自由です。どなたでもお気軽にご参加ください。

（企画担当委員 金善美・妻木進吾・西野淑美・横田尚俊）

【テーマ部会】 日本の都市に「近隣効果」はあるのか？

【趣旨】

アンドリュー・アボットがシカゴ学派社会学の特徴は時間・空間の「文脈」を重視したことだと論じているように、W・J・ウィルソンの貧困の集積論から始まりR・ Sampsonの近隣効果論にいたるまで、現代シカゴをフィールドとした都市社会学、貧困・犯罪研究においても、近隣間の格差や、居住地区が個人特性とは独立して犯罪や健康、教育達成などに影響する「近隣効果」に注目した研究が蓄積され、ヨーロッパの都市を対象とした研究もすすんでいる。

C・ショウとH・マッケイの地区分析にたいするロビンソンの生態学的誤謬批判は、シカゴ学派が国勢調査データをもとに分析を行ってきたことにたいするものであったが、近年では、彼らの関心はそもそも個人にあるのではなく、地域の「文脈」の効果であり、それこそがシカゴ社会学の方法論的な特徴であったとして再評価がすすんでいる。その点で、Sampsonの『グレート・アメリカン・シティ』（2013）の研究が代表するように、現在の「近隣効果」研究はシカゴ学派以来の問題意識を正当に受け継いでいるといえるだろう。

マルチレベルモデルや因果推論など近年の分析手法の発展とともに、近隣効果に関する研究の蓄積はこの約二十年のあいだに膨大なものとなったが、日本での研究はまだ数少ない。日本の都市でも「近隣効果」を実証することはできるのだろうか。また近隣効果のメカニズムを明らかにするためには、計量モデルだけではなく質的な研究も必要なのだろうか。またこれまで都市社会学で蓄積されてきたネットワークやコミュニティ研究との関係をどのように考えたらよいのだろうか。

近隣効果とはどのようなものか。近隣効果研究にはどのような可能性があるのだろうか。隣接分野の第一線の研究者の現状報告を伺いつつ、日本の都市社会学での展開可能性について議論したい。

（企画担当委員 三田泰雅・川野英二・木田勇輔）

[シンポジウム]

「アジアにおける都市下層の比較社会学——移動／ジェンダー／コミュニティ」 (仮)

【趣旨】

本シンポジウムはアジアの途上諸国における都市下層に着目し、彼／彼女たちの居住や労働の磁場として機能してきたインフォーマル居住区がどのように変容しているのかを移動とジェンダーの視点から検討することを目的とする。本学会でもアジアの都市下層をテーマに、居住改善やコミュニティ形成、インフォーマル・セクターにおける労働過程と階層移動、都市再開発による強制退去等について活発な議論がなされてきた。とりわけ近年では、ネオリベラルな都市空間の再編成という観点から、都市下層の居住や労働に付随するインフォーマル性を周縁化する政策的言説と、生存を賭した都市雑業や「非合法」な居住のためのニッチな空間を切り拓く行為が主体が描かれてきた。

こうした一連の研究において、ジェンダーと世代、移動はやや看過されてきたテーマである。国際分業体制の底辺を支える途上国都市において、インフォーマル居住区は向都移動者にとっての目的地であるのみならず、世代間再生産の場所でもあり、社会的上昇を企図した国際移動の中継点でもある。また、当該都市の内部における社会的上昇の場所として、インフォーマル・セクター間の移動を可能にする学歴や就労機会、それを支える社会的ネットワークも形成されている。さらには従来の都市中間層だけでなく海外移住者の世帯に雇用される家事労働者を中心に、農村および都市内で移動した貧困女性が担う底辺労働力の需要が拡大している。

このような就労機会の獲得や世帯の再生産、階層移動の戦略における世代間の差はどのようにみられるのか。こうした機会獲得や労働過程において顕在化するジェンダー役割ないしは不平等を、家族／世帯そしてローカルな市場の各水準にてどのように捉えるのか。本シンポジウムではタイ、フィリピン、インドネシアにおける諸都市を事例に、都市下層のインフォーマル居住区からみえてくる労働市場、ローカル・コミュニティ、家族／世帯の構造変容を都市社会学および隣接分野と地域研究 (Area Studies) の両面から捉える方法をいくつか提示したい。

(企画担当委員：佐藤裕、松林秀樹、松菌祐子、山口恵子)

自由報告の募集

【報告者募集】

第 38 回大会の自由報告を募集します。どうぞ奮ってお申し込みください。なお、自由報告の申し込みと同時に報告要旨を提出していただき、7 月発行の「学会ニュース」(第 116 号) に自由報告要旨を掲載することになっております。自由報告を希望される会員は、下記の要領で、自由報告の申し込みと自由報告要旨の提出を同時に行ってください。

(1) 自由報告の申し込みおよび報告要旨の提出方法 (締め切り：2020 年 6 月 3 日 (水) 18 時 必着)

次の①～⑤を A4 サイズ 1 枚に記し、保存した文書ファイルを、6 月 3 日 (水) 18 時まで学会事務局 (usocio@urbansocio.sakura.ne.jp) 宛に、E-mail に添付してお送りください。添付ファイルは、テキスト形式または「Microsoft Word」形式、ファイル名は「38jiyu_***」(***は報告者の名前をローマ字で入れる) としてください (例 38jiyu_yamamoto)。提出後の内容の修正は、受け付けません。

- ① 報告タイトル (仮題は不可)
- ② 報告者氏名・所属 (共同報告の場合は登壇者に○)
- ③ 報告要旨 (50 字×20 行以内を厳守)
- ④ 発表時に使用する機器
- ⑤ 連絡先 (郵便番号・住所・電話番号・E-mail アドレス)

申し込み締め切りを過ぎたものについては、一切受け付けないことになっています。メンテナンスなどのためにサーバーが一時不通になることもありますので、くれぐれも余裕を持って申し込みされるようお願いいたします。

(2) 注意事項（必ずお守りください!）

- ・ 共同報告の場合、登壇者は日本都市社会学会の会員に限ります。なお、未入会の方が報告を希望される場合は、申し込みを行う前に、入会の手続きをお済ませください。入会手続きについては、学会ホームページをご覧ください。
- ・ 報告要旨は、「報告の要旨」を会員に事前にお知らせすることを目的としておりますので、図表は入れ込まず、文章のみで作成してください（学会ニュース1ページに2つの報告要旨を掲載する予定です）。
- ・ この要領に反し、本文が1行50字で20行を超えていたり、図表が入っていたりする場合は、数日以内で訂正をお願いすることになります。また、期限内に訂正されない場合は、報告を放棄されたものとみなしますので、ご注意ください。
- ・ 大会当日にレジュメ/資料を配布する場合は、各自で別途ご用意ください。
- ・ 使用する機器については、会場の都合により不可能となる場合もあります（パワーポイントを使用する場合、PCは持参してください）。万が一の場合、機器なしでも報告できるようご準備をお願いします。

<自由報告申し込みと報告要旨原稿の提出方法>

締切 : **2020年6月3日(水) 18時 必着**
申込み・報告要旨原稿提出の方法 : E-mailによる
申込み・報告要旨原稿提出先 : 学会事務局 usocio@urbansocio.sakura.ne.jp

(事務局担当理事 山本薫子)

会員の皆さまへのお知らせ

編集委員会報告

(1) 『日本都市社会学会年報』第38号の編集が進んでいます。特集は「アジア都市社会学の新展開」「人口減少・高齢化時代の都市と災害」の2つを予定しています

(2) J-stage (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jpasurban/-char/ja/>)で『日本都市社会学会年報』第35号(2017年発行)までが閲覧できます。学会WEBサイトにもリンクが貼られていますので、ご利用ください。

(編集委員会委員長 高木恒一)

『日本都市社会学会年報』39号 自由投稿論文・研究ノートの募集について

【募集】

編集委員会では、『日本都市社会学会年報』第39号(2021年9月発行予定)に掲載する「自由投稿論文」、「研究ノート」および「書評リプライ」の原稿を募集します。会員諸氏の、奮っての投稿をお待ちしています。投稿を希望される方は、『年報37号』(2019年発行)に掲載されている投稿規定および執筆要項を遵守した原稿を作成のうえ、審査用原稿(3部)を2020年11月30日(消印有効)までに、下記の編集委員会事務局宛に郵送してください。なお、投稿資格のないもの、投稿期限を過ぎたものは一切受け付けられませんので、くれぐれもご注意ください。

〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1 立教大学社会学部高木研究室
日本都市社会学会編集委員会事務局
E-mail:takagi@rikkyo.ac.jp

(編集委員会委員長 高木恒一)

国際交流委員会報告

今年度は韓国地域社会学会の方々が龍谷大学での学会大会へ参加していただきます。現在、企画委員会と連携しつつ、自由報告部会での合同セッションを企画しております。両学会の交流が益々深まること期待しております。

(国際交流委員会委員長 松宮 朝)

社会学系コンソーシアム報告

2020年1月11日(土)、日本学術会議にて社会学系コンソーシアムの第12回評議員会と第12回シンポジウム「現代日本の「働く仕組み」——社会学からのアプローチ」が開催されました。

評議員会(30学会・60名の評議員で構成)では、2019年度の事業報告・決算報告、2020年度の事業計画・予算案に関する審議が行われ、いずれも異議なく承認されました。続いて役員選挙が行われ、10名の理事と2名の監事が、以下の通り決まりました(五十音順、敬称略)。理事：浦野正樹(日本社会学会)、坪洋一(日本社会福祉学会)、石原俊(関西社会学会)、音好宏(社会情報学会)、吉見俊哉(日本マス・コミュニケーション学会)、白波瀬佐和子(日本家族社会学会)、山田昌弘(福祉社会学会)、秋津元輝(日本村落研究学会)、清水洋行(地域社会学会)、宇都宮京子(関東社会学会)。監事：稲月正(日本社会学会)、山田真茂留(関東社会学会)。

(社会学系コンソーシアム担当理事 山本薫子)

理事会報告

2019-20年度第3回理事会が、3月8日(日)午後3時より首都大学東京秋葉原サテライトキャンパスにて開催されました。第38回大会の企画全体の準備状況(企画委員会報告)、年報38号の編集状況(編集委員会報告)等々について、各委員長・担当理事より報告がありました。そして、将来構想基金による国際学会参加支援の件等について審議がおこなわれました。その他、第39回大会開催校の選定、学会ニュース115号の内容、入退会の承認について、それぞれ審議されました。

(事務局担当理事 山本薫子)

2019-20年度各種委員会構成

2019-20年度の各種委員会の構成は以下の通りです。

[企画委員会] 委員長：松尾浩一郎、副委員長：山口恵子、担当理事：横田尚俊、委員：三田泰雅・松林秀樹・佐藤裕・山本唯人・妻木進吾・川野英二・木田勇輔・金善美・西野淑美・松菌祐子

[編集委員会] 委員長：高木恒一、副委員長：早川洋行、担当理事：稲月正、委員：室井研二・和田清美・文貞實・内田龍史・速水聖子・二階堂裕子・五十嵐泰正

[国際交流委員会] 委員長：松宮朝、委員：高畑幸・山本かほり・木田勇輔・金善美

[学会賞選考委員会] 委員長：谷富夫

[社会学系コンソーシアム委員] 担当理事：山口恵子・山本薫子

(事務局担当理事 山本薫子)

会員異動

新入会員

<東京都地区>

中山 賢一 (立教大学大学院) (2019年9月4日理事会承認)

<中部・近畿地区>

根本 雅也 (立命館大学衣笠総合研究機構) (2019年9月4日理事会承認)

<中国・四国・九州・海外地区>

結城 翼 (社会理論・動態研究所) (2019年9月4日理事会承認)

ウィックストラム 由有夏 (岡山大学) (2020年3月8日理事会承認)

退 会 (2020年3月8日理事会承認)

<東日本地区>

田中 重好 (尚絅学院大学)

店田 廣文 (早稲田大学)

<東京都地区>

小林 和夫 (創価大学)

今野 裕昭 (専修大学)

<中国・四国・九州・海外地区>

吉良 伸一 (大分県立芸術文化短期大学)

会員資格の喪失

秋風 千恵、浅沼=ブリス・セシル、安錦珠、川口 世人、久保田 滋、近藤 秀将、松田 さおり

転居先不明

松田 さおり

(事務局担当理事 山本薫子)

学会事務局からのお知らせ

◆ 2020年度 会費納入のお願い

学会費の振替用紙を同封させていただきました。2019年度会費を納入していただきました会員の皆様、2020年度(2020年4月1日~2021年3月31日)の会費も、できるだけ早めの納入をお願い致します。年会費は一般会員が6,500円、学生会員が4,000円となっております。外国籍会員の場合、年会費減額の措置が適用される場合もあります。詳しくは、学会のホームページをご参照ください。

なお、2019年度までの学会費をまだ納入されていない会員の皆様は、お早めに納入くださいますようお願い申し上げます。極力、全額の納入をお願いいたしますが、単年度分の振込につきましてもお受けいたしますので、是非とも納入していただきますよう重ねてお願い申し上げます。継続して3年以上会費を滞納した場合、原則として会員の資格を失うこととなりますので(学会規約12条)、その旨ご留意ください。

本学会が利用しておりますゆうちょ銀行は、全国の金融機関（一部を除く）との相互振込が可能です。他の金融機関から本学会の口座に振り込む場合は、以下の店名・預金種類・口座番号・受取人名をご指定ください。

銀行名..... ゆうちょ銀行	預金種類..... 当座
金融機関コード..... 9900	口座番号..... 0703976
店番..... 019	受取人名..... ニホントシシヤカイガツカイ
店名 (カナ) 〇一九 (ゼロイチキユウ店)	

◆ 第38回大会へのご参加のお願い

次回学会大会は、2020年9月5日（土）、6日（日）（予定）の日程で龍谷大学深草キャンパスにて開催されます。是非ともご参加いただき、大会を盛り上げてくださいますよう、お願い申し上げます。

◆ ご所属先等変更のご連絡のお願い

新年度より、ご所属先やご住所等が変更となる会員の皆様もおられるかと思えます。その場合は、事務局へメールにてご連絡くださいますよう、くれぐれもよろしくお願い申し上げます。

◆ 学会ニュース No. 114 に関する訂正とお詫び

学会ニュース No. 114 に以下の間違いがありました。訂正し、関係の方々には深くお詫びいたします。

- ・6 ページ 5 行目 誤：第7回日本都市社会学会若手奨励賞 正：第11回日本都市社会学会賞
- ・6 ページ 7 行目 誤：第12回 正：第11回
- ・7 ページ 1 行目 誤：高木竜輔 正：松尾浩一郎
- ・9 ページ 「理事会報告」（3） 誤：2019-2020年度第1回 正：2019-2020年度第2回
- ・14 ページ：「会員異動」を「なし」と記載しましたが、2019年9月4日理事会承認分の3名の新入会員のお名前を記載すべきでした。

（事務局担当理事 山本薫子）